

WBT ユーザーズマニュアル (Basilware デスクトップ編)

株式会社ミントウェーブ



はじめに

このたびは、株式会社ミントウェーブのシンククライアント端末をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

シンククライアント端末の持つ機能を最大限に引き出すためにも、ご使用になる前に本マニュアルをよくお読みになり、装置の取り扱いを十分にご理解いただけるようお願い申し上げます。

本マニュアルについて

本マニュアルは、デスクトップ型 Basilware 搭載機種 of 操作/設定方法について説明したものです。

ハードウェアのセットアップについては、各機種のスタートアップガイド/取扱説明書を参照してください。

－目次－

1. セットアップの流れ.....	5
1.1 セットアップの流れ.....	5
2. セットアップウィザード.....	6
2.1 設定項目.....	6
2.2 設定方法.....	6
2.2.1 ネットワーク設定.....	7
2.2.2 ディスプレイの設定.....	11
2.2.3 現在時刻の設定.....	13
2.2.4 ターミナルのパスワード設定.....	15
2.2.5 セットアップウィザードの設定完了画面.....	16
3. 接続マネージャ.....	17
3.1 操作項目.....	17
3.2 操作方法.....	18
3.2.1 接続エントリの登録.....	18
3.2.2 接続エントリの編集.....	20
3.2.3 接続エントリの削除.....	21
3.2.4 接続エントリのスタートアップ設定.....	22
3.2.5 サーバへの接続.....	23
3.2.6 サーバとの接続終了.....	24
3.2.7 複数のセッションの管理.....	25
3.3 接続エントリの設定項目について.....	26
3.3.1 ICA 接続エントリ.....	26
3.3.2 RDP 接続エントリ.....	34
3.3.3 VMware View 接続エントリ.....	40
4. プロパティシート.....	42
4.1 ターミナルのプロパティ一覧.....	42
4.2 プロパティシート設定項目および設定方法.....	43
4.2.1 [全般]タブ内の設定.....	43
4.2.2 [画面]タブ内の設定.....	44
4.2.3 [入力]タブ内の設定.....	45
4.2.4 [音声]タブ内の設定.....	46
4.2.5 [コントロールパネル]タブ内の設定.....	47
4.2.6 [セキュリティ]タブ内の設定.....	48
4.2.7 [アドバンス]タブ内の設定.....	49
4.2.8 [WBT 情報]タブ内の設定.....	50

5. グローバル ICA クライアントの設定.....	51
5.1 [基本設定]タブ内の設定.....	52
5.2 [サーバーの場所]タブ内の設定.....	53
5.3 [ドライブマッピング]タブ内の設定.....	54
5.4 [ファイアウォール]タブ内の設定.....	55
6. セキュリティ機能.....	56
6.1 端末セキュリティ機能の種類.....	56
6.2 ターミナル設定のパスワード.....	57
6.3 接続マネージャ [構成]タブの非表示化.....	58
6.4 ユーザー認証機能.....	59
6.5 IEEE802.1x 認証機能.....	62
7. 周辺機器の接続.....	64
7.1 USB ストレージデバイスの利用.....	64
7.1.1 ICA 接続時に端末本体に接続した USB ストレージを使うには.....	65
7.1.2 RDP 接続時に端末本体に接続した USB ストレージを使うには.....	66
7.1.3 USB ストレージデバイスについての注意事項.....	68
7.2 ローカルプリンタの利用.....	69
7.2.1 ICA 接続時に端末本体に接続したプリンタを使うには.....	69
7.2.2 RDP 接続時に端末本体に接続したプリンタを使うには.....	70
7.2.3 ローカルプリンタの設定と確認.....	71

1. セットアップの流れ

ご利用いただける状態になるまでの手順を示します。

1.1 セットアップの流れ

ご利用いただける状態になるまでの手順は、以下の通りです。

- **箱を開ける**
↓
- **本体に機器を接続する**
↓
- **本体の電源を入れる**
↓
- **セットアップウィザードを実行する** ----- 2.セットアップウィザードを参照
システム環境のセットアップを行います。
↓
- **接続先サーバを登録する** ----- 3.接続マネージャを参照
接続先サーバのサーバ情報等を登録します。
↓
- **サーバへの接続を行う** ----- 3.接続マネージャを参照
登録したサーバへの接続を行います。
↓
- **ログオフ**
シンクライアント端末の電源を OFF する前にログオフを行います。

2. セットアップウィザード

セットアップウィザードは、サーバへの接続環境の設定を行うユーティリティです。

このユーティリティは、購入後はじめて端末の電源を ON した時、および後述のプロパティシートの項目で、**[ターミナルを出荷時の設定に初期化する]**を有効にした後の再起動時に表示されます。

2.1 設定項目

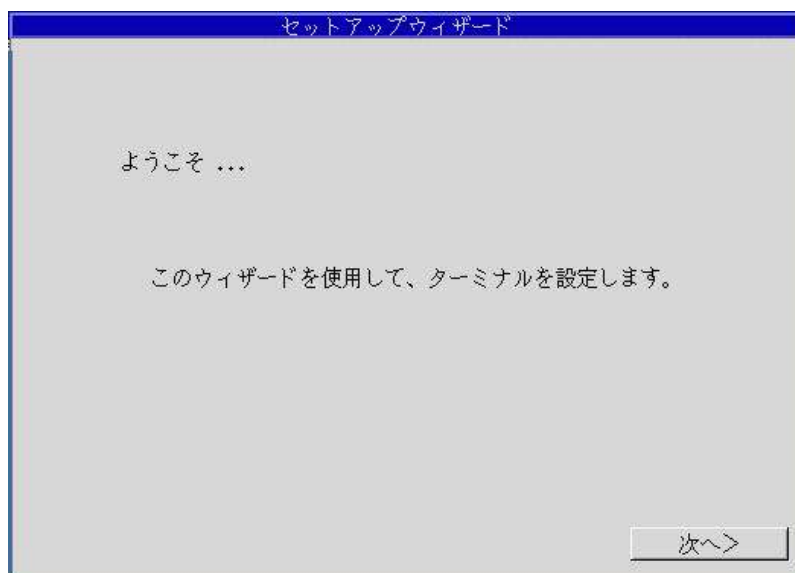
セットアップウィザードで設定する項目は、以下の通りです。

- ①ネットワーク
- ②画面
- ③日付/時刻
- ④セキュリティ

2.2 設定方法

セットアップウィザードの設定項目の設定方法について順に説明します。

まず、以下のセットアップウィザードの開始画面が表示されます。



[次へ>]ボタンをクリックします。

2.2.1 ネットワーク設定

セットアップウィザード画面にて[次へ>]ボタンをクリックすると、ネットワーク設定画面が表示されます。

インターフェース	状態
オンボード	有効
無線LAN	

この画面では、端末が使用するネットワークインターフェイスおよび IP アドレスの設定、無線 LAN の設定などを行います。

<ネットワークインターフェイスの選択>

[ネットワークの選択]フィールド内に、端末が使用できるネットワークインターフェイスがリストアップされています。使用中のインターフェイスは、[状態]が[有効]と表示されています。

端末では、下記の 2 種類のネットワークインターフェイスが使用可能です。

- ・オンボード(デフォルト)
- ・無線 LAN

<ターミナル名の設定>

[ターミナル名]に、端末に設定するターミナル名を入力します。

任意の名前を設定する場合は、他のターミナルで使用していない名前を設定します。

ターミナル名は最大 15 文字まで設定可能です。

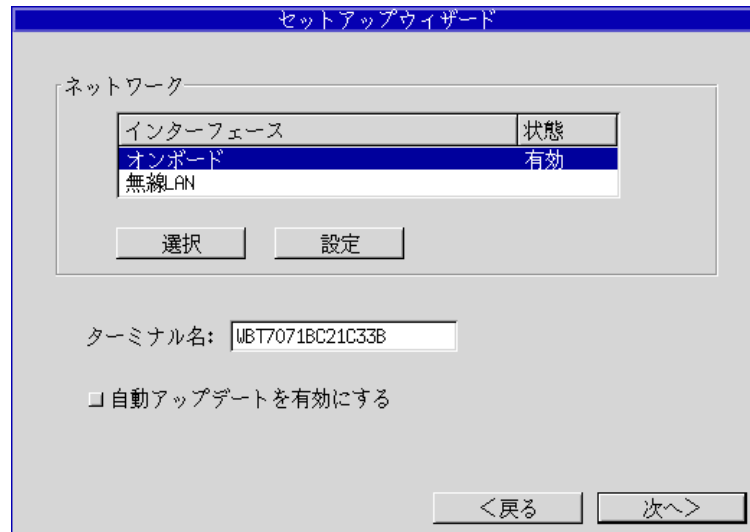
<自動アップデートを有効にする>

MintView の自動アップデート機能を有効にする場合、チェックボックスを有効にします。

(デフォルト:無効)

<使用するネットワークインターフェイスの変更>

- 1) 使用するインターフェイスを変更する場合は、使用したいインターフェイスを選択し、**[選択]**ボタンをクリックしてください。



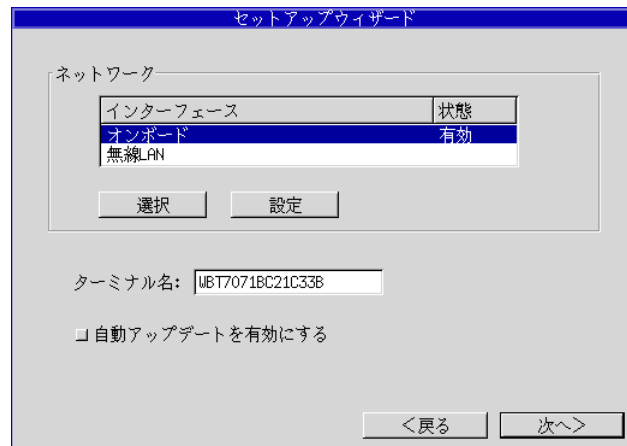
- 2) 選択されたインターフェイスの状態が**[有効]**に切り替わり、使用可能となります。

備考:

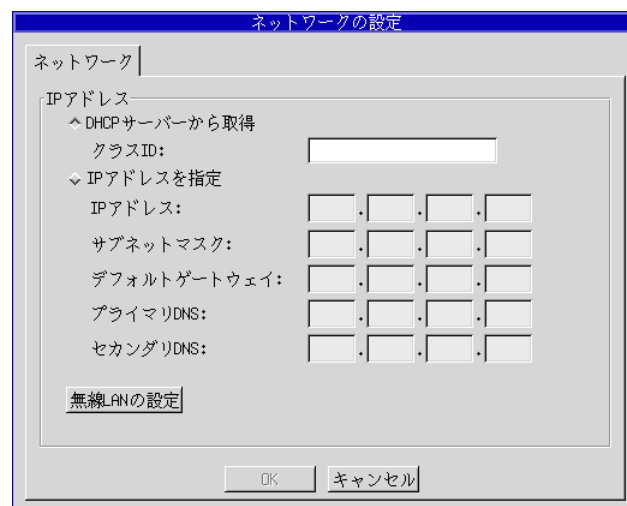
インターフェイスの IP アドレス設定等を変更するには、**[有効]**状態のインターフェイスを選択して**[設定]**ボタンをクリックします。

<IP アドレスの設定手順>

- 1) <使用するネットワークインターフェースの変更>を参照し、IP アドレスを設定するネットワークインターフェースの状態を[有効]にします。
- 2) IP アドレスを設定するネットワークインターフェースを選択し、[設定]ボタンをクリックします。



- 3) [ネットワークの設定]画面が表示されます。
[DHCP サーバから取得/IP アドレスを指定]のいずれかを選択し、IP アドレスを指定 を選択した場合は、IP アドレス、サブネットマスクなどを設定します。
DHCP サーバから取得 を選択した場合は、必要に応じてクラス ID を設定します。



- 4) 無線 LAN インターフェイスに関する設定を行う時は、[無線 LAN の設定]ボタンをクリックします。

以下の[無線 LAN]ダイアログが表示されたら、SSID、暗号化等を設定し、[OK]ボタンをクリックします。



[無線 LAN の設定]ダイアログボックスには、下記の設定項目があります。

[SSID]

通信を行う無線 LAN の SSID を入力します。

[暗号化]

暗号化方式を指定します。以下の値から選択できます。

(デフォルト:なし)

- ・なし
- ・WEP(40 ビット)
- ・WEP(104 ビット)
- ・WPA (TKIP)
- ・WPA (AES)

[キー]

暗号化を指定する場合、キーを入力します。ASCII 文字列、16 進数が使用できます。

5) ネットワーク情報を入力後、設定を保存するため、[OK]ボタンをクリックします。

[ネットワークの設定]画面が終了し、セットアップウィザード画面に戻ります。

備考:

動作確認済み USB 無線 LAN アダプター一覧(2012 年 4 月時点)

- ・WLI-UC-GNHP(バッファロー製)
- ・LAN-W300N/U2(ロジテック製)
- ・WN-G300U(アイ・オー・データ機器製)

設定が終了したら、[次へ>]ボタンをクリックします。

2.2.2 ディスプレイの設定

ネットワーク設定画面にて[次へ>]ボタンをクリックすると、ディスプレイ設定画面が表示されます。



この画面では、ディスプレイの設定を行います。

【画面】

解像度、リフレッシュレート、および色数の設定を行います。

【デスクトップ領域とリフレッシュレート】

解像度およびリフレッシュレートを設定します。(デフォルト:1024x768,60Hz)

変更する場合は、右側の▼をマウスでクリックして使用できる値を選択してください。

【色】

色数を設定します。右側の▼をマウスでクリックして使用する値をクリックしてください。以下の値から選択します。(デフォルト:24ビット)

- ・8ビット
- ・16ビット
- ・24ビット

[テスト]ボタン

[デスクトップ領域とリフレッシュレート]で選択した設定が正常に表示できるか、5秒間の表示テストを行います。

表示結果に問題があれば、設定を変更してください。

設定が終了したら、**[次へ>]**ボタンをクリックします。

2.2.3 現在時刻の設定

ディスプレイ設定画面にて[次へ>]ボタンをクリックすると、現在の日付/時刻設定画面が表示されます。

この画面では、現在の日付、時刻の設定を行います。

[設定]ボタンをクリックすると、以下の[時間設定]ダイアログボックスが表示されます。

<現在の日付/時刻の設定手順>

- 手動で変更するには
 - 1) 日付を変更するため、カレンダー内の変更する項目を選択します。
 - 月を変更するには、月の一覧の矢印をクリックし、正しい月をクリックします。
 - 年を変更するには、年の一覧で左右の矢印をクリックします。
 - 日を変更するには、カレンダーで正しい日をクリックします。

日付/時刻の設定

現在の日付/時刻

◀ 9月 ▶ ▶ 2010 ▶

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	1	2
3	4	5	6	7	8	9

時刻: 09 : 54 : 29

ネットワークタイム

サーバ: ntp.example.co.jp

☒ ブート時に時刻を同期 同期

OK キャンセル

- 2) 時刻を変更するため、時刻ボックスに新しい値を入力します。
 - 3) 設定を保存するため、[OK]ボタンをクリックします。
- ネットワークタイムサーバによって時刻の同期をとるには
 - 1) サーバボックスに時刻同期に使用するタイムサーバを入力します。
入力後、[同期]ボタンをクリックすると、時刻は即座に同期されます。
 - 2) 端末を起動する度にネットワークタイムサーバと時刻同期を行う場合は、[ブート時に時刻を同期]チェックボックスを有効にします。
 - 3) 設定を保存するため、[OK]ボタンをクリックします。

設定が終了したら、[次へ>]ボタンをクリックします。

2.2.4 ターミナルのパスワード設定

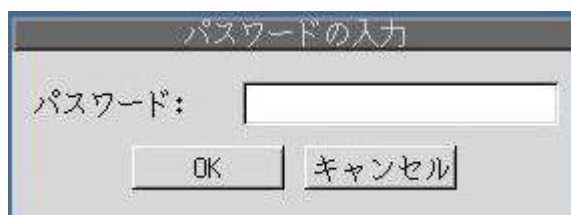
現在の日付/時刻の設定画面にて[次へ>]ボタンをクリックすると、ターミナルのパスワード設定画面が表示されます。



この画面では、プロパティシートのパスワードを設定します。

プロパティシートの設定内容をパスワードによって保護したい場合は、「**ターミナル設定のパスワードを有効にする**」チェックボックスを有効にし、パスワードを設定してください。

ここでパスワードを指定すると、プロパティシート表示時(接続マネージャ画面で[F2]キーを押した時)から以下のダイアログが表示され、パスワードの入力を求められるようになります。



備考:

パスワードの長さは最大 8 文字までです。

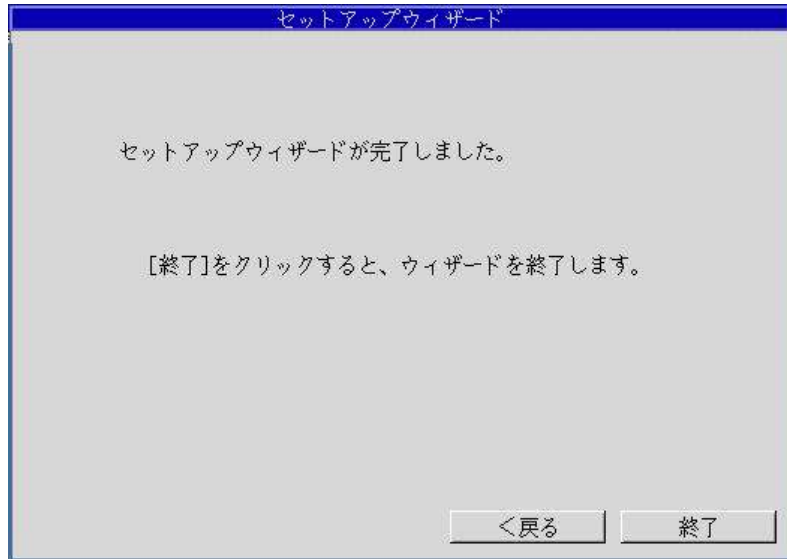
設定したパスワードの変更やパスワード設定の解除は、プロパティシートの[セキュリティ]タブ内で行います。

設定が終了したら、[次へ>]ボタンをクリックします。

2.2.5 セットアップウィザードの設定完了画面

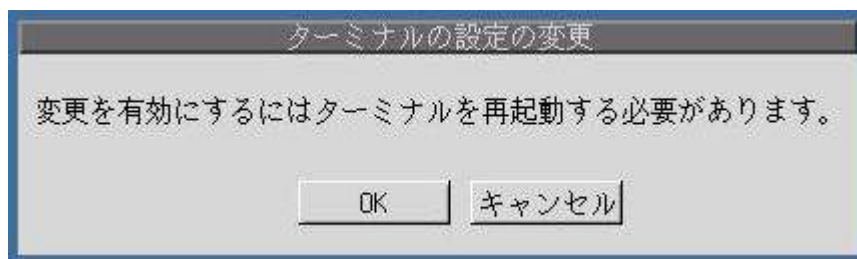
ターミナルのパスワード設定画面にて、[次へ>]ボタンをクリックすると、セットアップウィザードの設定完了画面が表示されます。

この画面では、ここまでに設定した設定内容を有効にしてセットアップウィザードを完了するかどうかを決定します。



ここまでの設定内容に誤りがなければ[終了]ボタンをクリックしてください。

[終了]ボタンをクリックすると、以下の再起動を要求するダイアログが表示されます。



再起動後、接続マネージャが表示されます。**3. 接続マネージャに進んでください。**

3. 接続マネージャ

セットアップウィザードを完了すると、以下の[接続マネージャ]画面が表示されます。

以後、起動時には、[接続マネージャ]が表示されます。



接続マネージャは、サーバとの接続に使用する接続エントリの登録、編集を行ったり、サーバとの接続を実行するユーティリティです。

サーバとの接続セッションからログオフした際にも表示され、他の接続エントリを起動することができます。また、サーバとの接続セッションを実行中に、キーボードの[Ctrl]+[Alt]+[End]キーを同時に押下することにより任意の時点で表示させることができ、複数の接続セッションを同時に実行することも可能です。

3.1 操作項目

接続マネージャには、サーバとの接続のための情報を設定する項目と、実際にサーバへの接続および切断を行う項目などがあります。各項目の内容は以下の通りです。

●サーバとの接続のための情報を設定する項目

- [追加] 接続したいサーバの情報を接続エントリとして登録します。
- [編集] 登録済の接続エントリを編集します。
- [削除] 登録済の接続エントリを削除します。
- [スタートアップ] 登録済の接続エントリに、起動時の状態を設定します。

●接続および切断を行う項目

- [接続] 選択した接続エントリを起動し、サーバに接続します。
- [終了] 選択したサーバを切断します。

●その他の項目

- [シャットダウン] 端末をシャットダウン/再起動します。

3.2 操作方法

接続マネージャの各項目の操作方法について順に説明します。

3.2.1 接続エントリの登録

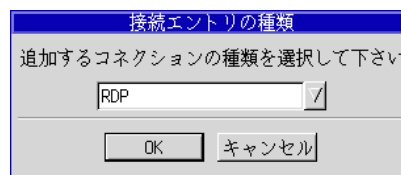
サーバに接続するには、接続マネージャに接続エントリ情報を登録する必要があります。
下記の手順で、接続マネージャに接続エントリを登録します。

- 1) 接続マネージャの[構成]タブをクリックし、設定画面の[追加]ボタンをクリックします。



- 2) [接続エントリの種類]選択画面が表示されます。

接続するサーバの種類に応じて、コネクションの種類を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



端末に登録できる接続エントリは、接続サーバの種類により、以下のプロトコルをサポートします。

- ・ICA …Citrix サーバ接続 (Citrix Presentation Server, XenApp)
- ・RDP …ターミナルサーバ接続 (Microsoft Windows Server)
- ・VDI …VMware View サーバ接続

3) コネクションの種類(プロトコル)に応じた設定画面が表示されます。

(図は、RDP 接続エントリの作成/編集 画面の例)

RDP 接続エントリの作成/編集

全般 | 画面 | ローカルリソース | プログラム | エクスペリエンス

接続エントリ

名前: rdp-test

サーバー: 192.168.0.1

☐ 自動ログオン

ユーザー名:

パスワード:

ドメイン:

☐ データ圧縮 *** 色数が8ビットでないと有効になりません ***

OK キャンセル

以降は、**3.3 接続エントリの設定項目について** 項の指示に従い設定を行い、[OK]ボタンをクリックして接続エントリを登録してください。

[キャンセル]ボタンをクリックすると、登録が中止されます。

接続エントリを登録すると、接続マネージャに新しく設定した接続エントリが追加されます。

接続マネージャ

接続エントリ | 構成

コネクション

名前	種類	接続状態
rdp-test	RDP	

接続 終了 シャットダウン

3.2.2 接続エントリの編集

接続マネージャに登録された接続エントリの設定内容は、下記の手順で変更します。

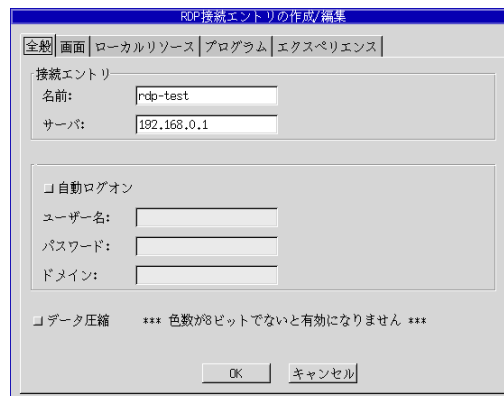
- 1) 接続マネージャの**【構成】**タブをクリックしてください。



- 2) 設定変更したい接続エントリをクリックして選択し、**【編集】**ボタンをクリックします。



- 3) 選択した接続エントリの編集画面が表示されます。
(図は、RDP 接続エントリの作成/編集 画面の例)

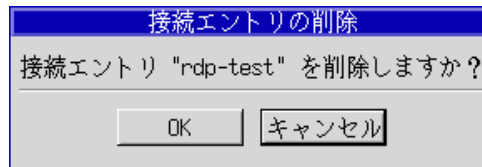


- 4) 設定変更後、**【OK】**ボタンをクリックすると、接続エントリが再登録されます。
【キャンセル】ボタンをクリックすると、変更を中止します。

3.2.3 接続エントリの削除

接続マネージャに登録された接続エントリは、下記の手順で削除することができます。

- 1) 接続マネージャの[構成]タブ内で、削除したい接続エントリをクリックして選択し、[削除]ボタンをクリックすると、以下の確認ダイアログが表示されます。



- 2) 削除確認ダイアログで、[OK]ボタンをクリックすると、選択された接続エントリが削除されます。

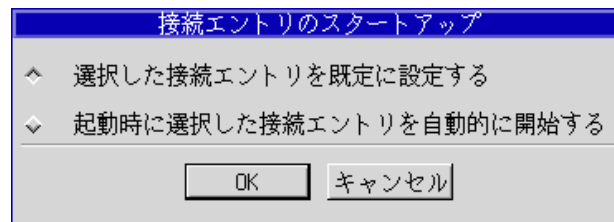


[キャンセル]ボタンをクリックすると、削除されません。

3.2.4 接続エントリのスタートアップ設定

登録済みの接続エントリに対し、起動時の状態（デフォルトで選択状態にする/自動的に実行開始する）を設定できます。

- 1) 接続マネージャの[構成]タブ内で、スタートアップ設定を行いたい接続エントリをクリックして選択し、[スタートアップ]ボタンをクリックすると、以下のスタートアップ設定ダイアログが表示されます。



スタートアップ設定ダイアログで、

[選択した接続エントリを既定に設定する]を設定した場合

選択した接続エントリが、起動時のデフォルトエントリとして設定されます。

[起動時に選択した接続エントリを自動的に開始する]を設定した場合

選択した接続エントリが、起動時に自動的に開始されます。

- 2) スタートアップ設定ダイアログで、[OK]ボタンをクリックすると、選択した接続エントリに、起動時のスタートアップ状態（既定、もしくは自動起動）が設定されます。

(図は、**[起動時に選択した接続エントリを自動的に開始する]**を設定した場合)



[キャンセル]ボタンをクリックした場合は、スタートアップ状態は設定されません。

3.2.5 サーバへの接続

登録済みの接続エントリを実行して、サーバに接続します。

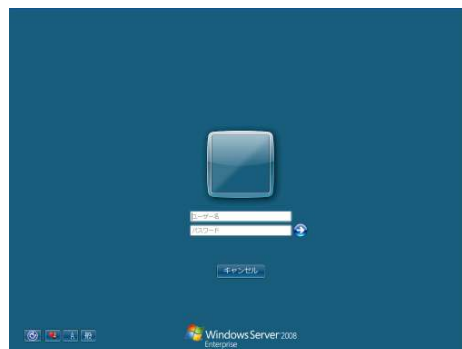
- 1) 接続マネージャの[接続エントリ]タブをクリックします。



- 2) 一覧から実行したい接続エントリを選択し、コネクションフレーム内の[接続]ボタンをクリックします。



下図のように、サーバへ接続を行うことができます。



3.2.6 サーバとの接続終了

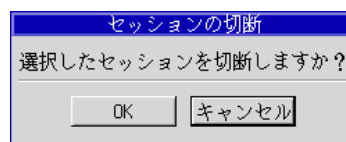
[終了]ボタンは、接続中のサーバからログオフせずに運用状態を保持したままセッションを切断したい場合に使用します。

なお、本操作により切断したサーバに再度接続すると、セッションを切断した状態から運用を再開できます。

- 1) サーバと接続しているときに、[Ctrl]+[Alt]+[End]キーを押下すると接続マネージャが表示されます。サーバとの接続が行われている接続エントリは、接続状態が[接続中]と表示されます。



- 2) [接続中]の接続エントリを選択し、[終了]ボタンをクリックすると、以下の[セッションの切断]ダイアログが表示されます。



- 3) [OK]ボタンをクリックすると、選択された接続エントリの[接続中]表示が解除され、サーバと切断されます。



3.2.7 複数のセッションの管理

端末では、複数のセッションを同時に実行することが可能です。

複数セッションの起動方法

複数のセッションを同時に実行するには、以下のように操作します。

- 1) 接続マネージャの[接続エントリ]タブ内で、接続エントリを選択し、コネクションフレーム内の[接続]ボタンをクリックしてサーバと接続します。
- 2) サーバと接続しているときに、[Ctrl]+[Alt]+[End]キーを押下することにより、接続マネージャに戻ることができます。



- 3) 接続マネージャ内で他の接続エントリを選択し、コネクションフレーム内の[接続]ボタンをクリックして、サーバに接続します。



- 4) また、[接続中]で表示された接続エントリを選択してコネクションフレーム内の[接続]ボタンをクリックすると、実行中の接続セッションの操作に復帰することができます。

3.3 接続エントリの設定項目について

端末から、ネットワーク上のサーバに接続して使用するには、接続マネージャに、接続エントリを登録して実行する必要があります。

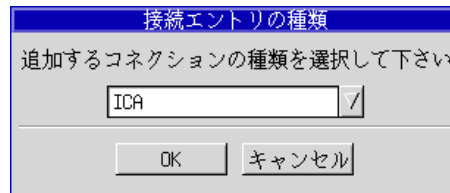
登録できる接続エントリは、接続サーバの種類により、以下のプロトコルをサポートしております。

- | | |
|------|--|
| ・ICA | ・・・Citrix サーバ接続 (Citrix Presentation Server, XenApp) |
| ・RDP | ・・・ターミナルサーバ接続 (Microsoft Windows Server) |
| ・VDI | ・・・VMware View サーバ接続 |

以下、プロトコルの種類によって、設定方法を示します。

3.3.1 ICA 接続エントリ

ICA 接続エントリを登録するには、接続マネージャで[追加]ボタンをクリックし、[接続エントリの種類]画面にて ICA を選択します。



以下の[ICA 接続エントリの作成/編集]画面が表示されます。

ICA接続エントリの作成/編集

ネットワーク | コネクション | プログラム | ログオン情報 | 自動再接続 | ファイヤウォール

プロトコル: TCP/IP + HTTP

サーバーの場所: 192.168.0.2 ポート: 80

☐ デフォルトを使用

接続エントリ

サーバー: ica-test 参照

サーバー: CitrixServer

OK キャンセル

ICA 接続エントリは、以下の情報を登録する必要があります。

・[ネットワーク]タブ

ICA ブラウズ設定および接続サーバ情報、接続エントリ名を設定します。

・[コネクション]タブ

色数およびデータ圧縮、暗号化、SpeedScreen などを設定します。

・[プログラム]タブ

ログオン時に、特定のアプリケーションのみを起動する場合に設定します。

・[ログオン情報]タブ

ICA コネクション起動時に、特定のユーザーで自動ログオンする場合に設定します。

・[自動再接続]タブ

ICA 接続中に、ネットワーク障害などで切断された際、切断されたセッションの再接続する場合に設定します。

・[ファイヤウォール]タブ

Citrix サーバに対して、ファイヤウォール外部から ICA 接続を行う場合に設定します。

必要な情報を設定後、[ICA 接続エントリの作成/編集]画面下部の[OK]ボタンをクリックすると、[接続マネージャ]に ICA 接続エントリが登録されます。

接続マネージャ

接続エントリ 構成

コネクション

名前	種類	スタートアップ
ica-test	ICA	既定

追加 編集 削除 スタートアップ

3.3.1.1 [ネットワーク]タブ内の設定

[ネットワーク]タブ内では、ICA ブラウズ設定および接続サーバ情報、接続エントリ名を設定します。

The screenshot shows the 'ICA接続エントリの作成/編集' (ICA Connection Entry Creation/Editing) window with the 'ネットワーク' (Network) tab selected. The 'プロトコル' (Protocol) dropdown is set to 'TCP/IP + HTTP'. The 'サーバーの場所' (Server Location) text box contains '192.168.0.2' and the 'ポート' (Port) text box contains '80'. Below these, the 'デフォルトを使用' (Use Default) checkbox is checked. In the '接続エントリ' (Connection Entry) section, the 'サーバー' (Server) radio button is selected. The '名前' (Name) text box contains 'ica-test' and the 'サーバー' (Server) text box contains 'CitrixServer'. There is a '参照' (Reference) button next to the server name. At the bottom are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

以下の設定項目があります。

[プロトコル]

ICA ブラウズに使用するプロトコルを設定します。

以下の値から選択します。(デフォルト: **TCP/IP + HTTP** ※)

- ・TCP/IP + HTTP
- ・TCP/IP
- ・SSL/TLS + HTTPS

※ デフォルトは、[グローバル ICA クライアントの設定]画面で、変更することができます。

[サーバーの場所/ポート]

ICA ブラウズに使用するサーバおよびポート番号を設定します。

[デフォルトを使用]チェックボックスを有効にすると、[グローバル ICA クライアントの設定]画面で設定した内容が有効になります。

[サーバー/公開アプリケーション]

接続するサーバの種類を選択します。[サーバー]を選択して Citrix サーバに接続するか、**公開アプリケーション**を選択して公開アプリケーションに接続します。

[名前]

接続マネージャのリストに表示する、ICA 接続エントリのタイトルを入力します。

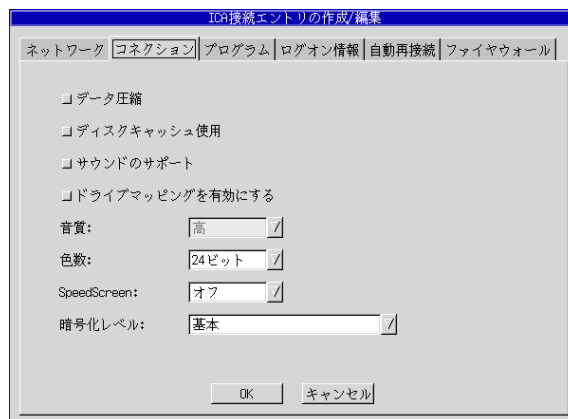
[サーバー]

Citrix サーバ名/公開アプリケーション名もしくは Citrix サーバの IP アドレスを入力します。

サーバまたは公開アプリケーションの一覧を表示して選択するには、[プロトコル]および[サーバーの場所/ポート]を設定後、[参照]ボタンをクリックします。サーバ名が一覧に表示される場合は、その一覧から接続先サーバまたは公開アプリケーションを選択します。

3.3.1.2 [コネクション]タブ内の設定

[コネクション]タブ内では、色数およびデータ圧縮、暗号化、SpeedScreen などを設定します。



以下の設定項目があります。

[データ圧縮]

データ圧縮を行うと、ICA セッションで転送されるデータ量を減らすことができます。接続の帯域幅に制限がある場合は、データ圧縮を使用するとパフォーマンスが向上します。

(デフォルト:無効)

[ディスクキャッシュ使用]

ディスクキャッシュを有効にします。(デフォルト:無効)

[サウンドのサポート]

サウンドを有効にします。(デフォルト:無効)

[ドライブマッピングを有効にする]

ドライブマッピングを有効にします。(デフォルト:無効)

[色数]

色数を設定します。以下の値から選択します。(デフォルト:24ビット ※)

- ・4 ビット
- ・8 ビット
- ・16 ビット
- ・24 ビット

※ デフォルトは、[グローバル ICA クライアントの設定]画面での操作により、変更することができます。

[SpeedScreen]

SpeedScreen を有効にすると、ユーザーによるマウスクリックの結果が即座に反映されます。

(デフォルト:無効)

[暗号化レベル]

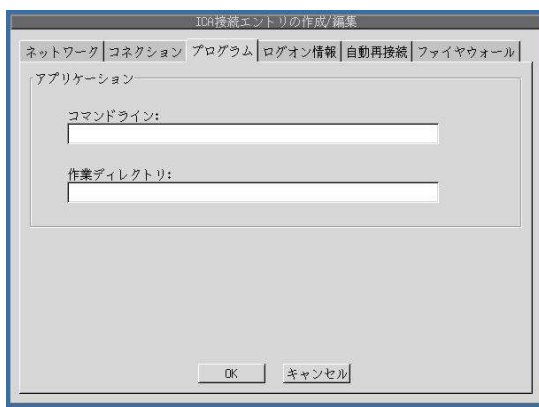
暗号化レベルを設定します。以下の値から選択します。(デフォルト:[基本])

- ・基本
- ・RC5(128 ビット、ログオンのみ)
- ・RC5(40 ビット)
- ・RC5(56 ビット)
- ・RC5(128 ビット)

暗号化レベルは Citrix サーバに合わせる必要があります。

3.3.1.3 [プログラム]タブ内の設定

[プログラム]タブ内は、ログオン時に特定のアプリケーションのみ起動する場合に設定します。



接続時にアプリケーションを起動したい場合は、必要な情報を[コマンドライン]および[作業ディレクトリ]テキストボックスに入力します。

[コマンドライン]

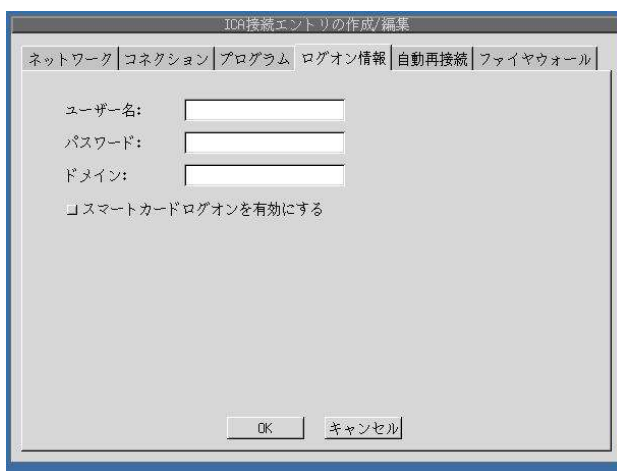
Citrix サーバに接続したときに起動するアプリケーションのパスを指定します。

[作業ディレクトリ]

アプリケーションが使用する作業ディレクトリのパスを指定します。

3.3.1.4 [ログオン情報]タブ内の設定

[ログオン情報]タブ内は、ICA コネクション起動時に自動ログオンする場合に設定します。



[ユーザー名]

ユーザーアカウント名を指定します。

[パスワード]

ユーザーアカウントに対応したパスワードを指定します。

[ドメイン]

ユーザーアカウントが所属するドメイン名を指定します。

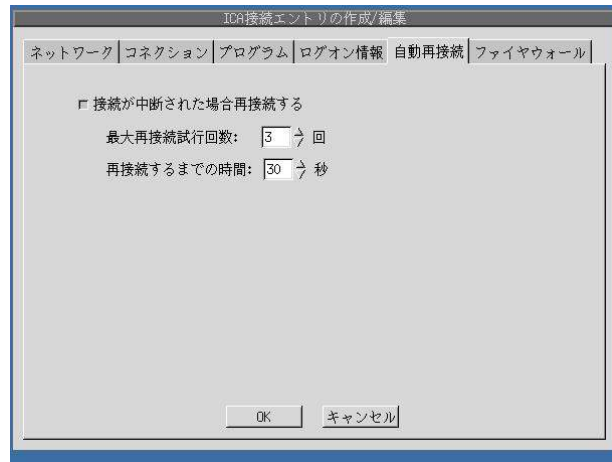
[スマート カード ログオンを有効にする]

スマートカードログオンを有効にします。(デフォルト: **無効**)

※本機能はカスタマイズ対応となります。

3.3.1.5 [自動再接続]タブ内の設定

[自動再接続]タブ内は、ICA コネクション実行中に、ネットワーク障害などで切断された際、切断されたセッションの再接続する場合に設定します。



以下の設定項目があります。

[接続が中断した場合再接続する]

自動再接続機能の有効/無効を切り替えます。(デフォルト:有効)

[最大再接続試行回数]

再接続を試みる回数を設定します。(デフォルト:3 回)

[再接続するまでの時間]

切断を検出してから再接続を開始するまでの秒数を設定します。(デフォルト:30 秒)

3.3.1.6 [ファイヤウォール]タブ内の設定

[ファイヤウォール]タブ内は、Citrix サーバに対し、ファイヤウォール外部から ICA 接続する場合に設定します。

ICA接続エントリの作成/編集

ネットワーク | コネクション | プログラム | ログオン情報 | 自動再接続 | **ファイヤウォール**

プロキシ: なし(直接) /

プロキシサーバのアドレス: ポート: 80

SSL/TLS リレー

リレーサーバのアドレス: ポート: 443

☐ ファイヤウォールを介した接続で代替アドレスを使用する

OK キャンセル

以下の設定項目があります。

[プロキシ]

Citrix サーバに対して、SOCKS プロキシサーバまたは Secure(HTTPS)サーバ経由で接続する際に設定します。(デフォルト: なし(直接))

[プロキシサーバのアドレス/ポート]

SOCKS プロキシサーバまたは Secure(HTTPS)サーバ経由で接続する際に、プロキシサーバの IP アドレスおよびポート番号を設定します。

[リレーサーバのアドレス/ポート]

SSL プロトコルまたは TLS プロトコル接続で、Secure Gateway または Citrix SSL Relay を使用する際に、リレーサーバの IP アドレスおよびポート番号を設定します。

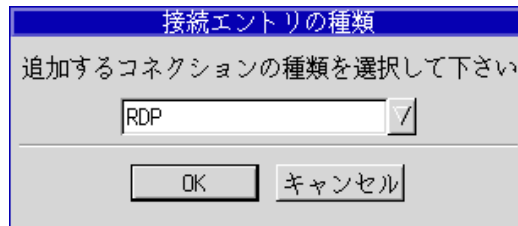
([ネットワーク]タブ内の[プロトコル]項目にて、**SSL/TLS + HTTPS** が選択された場合に設定を行います)

[ファイヤウォールを介した接続で代替アドレスを使用する]

ネットワークアドレス変換を行うファイヤウォールのため、Citrix サーバのマスタブラウザが代替アドレスを返すように構成されている場合は、有効にします。(デフォルト: 無効)

3.3.2 RDP 接続エントリ

RDP 接続エントリを登録するには、接続マネージャで[追加]ボタンをクリックし、[接続エントリの種類]画面にて **RDP** を選択します。



RDP 接続エントリは、以下の情報を登録する必要があります。

- [全般]タブ**

接続サーバ情報、接続エントリ名を設定します。また、自動ログオンする場合に設定します。

- [画面]タブ**

色数を設定します。

- [ローカルリソース]タブ**

ターミナルサーバとの接続時に使用する、ローカルデバイスを設定します。

- [プログラム]タブ**

ログオン時に、特定のアプリケーションを起動する場合に設定します。

- [エクスペリエンス]タブ**

ターミナルサーバ接続後の接続パフォーマンスを最適化するための設定します。

3.3.2.1 [全般]タブ内の設定

[全般]タブ内では、ターミナルサーバに接続する際の接続サーバ情報、接続エントリ名を設定します。

The screenshot shows a dialog box titled "RDP接続エントリの作成/編集" (RDP Connection Entry Creation/Editing). It has five tabs: "全般" (General), "画面" (Screen), "ローカルリソース" (Local Resources), "プログラム" (Programs), and "エクスペリエンス" (Experience). The "全般" tab is selected. Inside the dialog, there are two main sections. The first section, labeled "接続エントリ" (Connection Entry), contains two text input fields: "名前:" (Name) and "サーバ:" (Server). The second section, labeled "自動ログオン" (Automatic Logon), contains a checkbox "自動ログオン" (Automatic Logon) and three text input fields: "ユーザー名:" (Username), "パスワード:" (Password), and "ドメイン:" (Domain). Below these fields, there is a checkbox "データ圧縮" (Data Compression) and a note: "*** 色数が8ビットでないと有効になりません ***" (*** Color depth must be 8 bits to be effective ***). At the bottom of the dialog are two buttons: "OK" and "キャンセル" (Cancel).

【名前】

接続マネージャのリストに表示する、RDP 接続エントリのタイトルを入力します。

【サーバ】

ターミナルサーバの IP アドレス/サーバ名を入力します。

【自動ログオン】

ターミナルサーバに接続したときに自動ログオンする場合、有効にします。

【ユーザー名】

自動ログオンするユーザーアカウント名を指定します。

【パスワード】

自動ログオンするユーザーアカウントに対応したパスワードを指定します。

【ドメイン】

自動ログオンするユーザーアカウントが所属するドメイン名を指定します。

【データ圧縮】

データ圧縮を行うと、RDP セッションで転送されるデータ量を減らすことができます。接続の帯域幅に制限がある場合、データ圧縮を使用するとパフォーマンスが向上します。

3.3.2.2 [画面]タブ内の設定

[画面]タブ内では、ターミナルサーバ接続の際に使用する色数を設定します。



以下の設定項目があります。

【色】

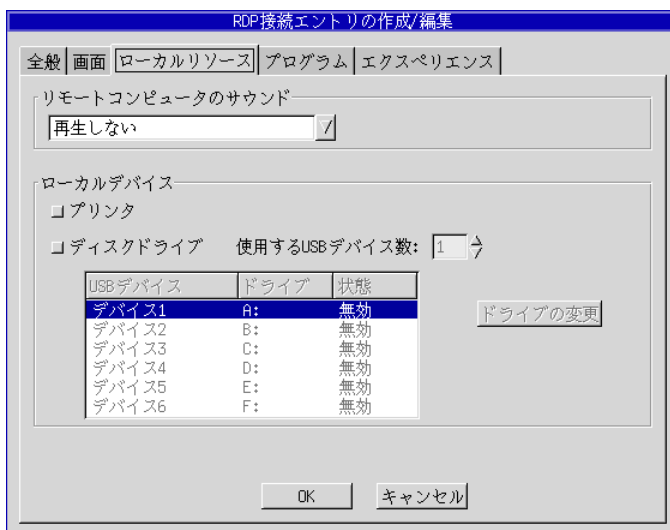
色数を設定します。

以下の値から選択します。(デフォルト: **24 ビット**)

- ・8 ビット
- ・16 ビット
- ・24 ビット
- ・32 ビット

3.3.2.3 [ローカルリソース]タブ内の設定

[ローカルリソース]タブ内では、ターミナルサーバとの接続時に使用する、ローカルデバイスを設定します。



以下の設定項目があります。

[リモートコンピュータのサウンド]

RDP セッションでオーディオを再生する設定を行います。

以下の値から選択します。(デフォルト:再生しない)

- ・再生しない
- ・このコンピュータで聞く
- ・リモートコンピュータで再生する

[プリンタ]

プロパティシートで設定したローカルプリンタを RDP セッション内で使用する場合、有効にします。

(デフォルト: 無効)

[ディスクドライブ]

USB ポートに接続したストレージデバイスを RDP セッション内で使用する場合、有効にします。

(デフォルト:無効)

[使用する USB デバイス数]

USB ポートに接続したストレージデバイスを RDP セッション内で使用する場合、使用する USB デバイス数を設定します。

[ドライブの変更]ボタン

USB ポートに接続したストレージデバイスを RDP セッション内で使用する場合、使用する USB デバイスのドライブレターをデフォルトから変更する際に設定します。

RDP セッション内での USB ストレージデバイスの使用方法については、**7.1 USB ストレージデバイスの利用** 項をご参照ください。また、RDP セッション内でのローカルプリンタの使用方法については、**7.2 ローカルプリンタの利用** 項をご参照ください。

3.3.2.4 [プログラム]タブ内の設定

[プログラム]タブ内では、ログオン時に特定のアプリケーションを起動する場合に設定します。



以下の設定項目があります。

【デスクトップ/ファイル名】

ターミナルサーバに接続した際、デスクトップを表示する場合は、[デスクトップ]を選択します。

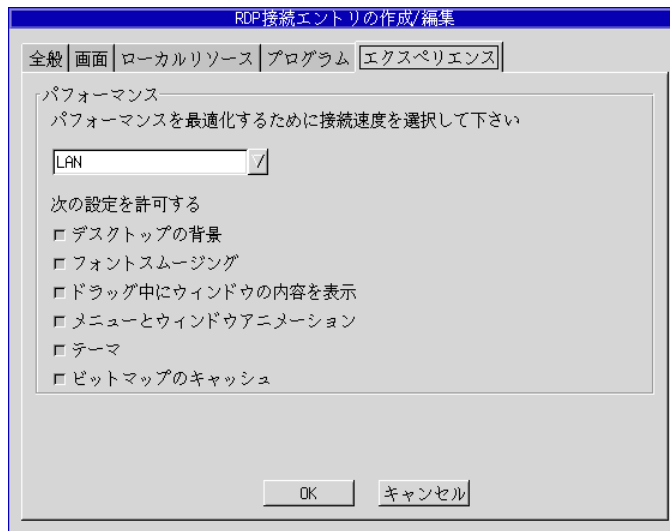
[ファイル名]を選択した場合、ターミナルサーバに接続したときに起動するアプリケーションのパスを指定します。(デフォルト:デスクトップ)

【作業ディレクトリ】

ファイル名を指定した場合、アプリケーションが使用する作業ディレクトリのパスを指定します。

3.3.2.5 [エクスペリエンス]タブ内の設定

[エクスペリエンス]タブ内では、ターミナルサーバ接続後のパフォーマンスを最適化するための設定を行います。



以下の設定項目があります。

[パフォーマンス]

ターミナルサーバに接続した際、接続パフォーマンスを最適化させるため、接続速度に合わせて、

[次の設定を許可する]設定が構成されます。

以下の値から選択します。(デフォルト:LAN)

- ・LAN
- ・ブロードバンド
- ・モデム
- ・カスタム

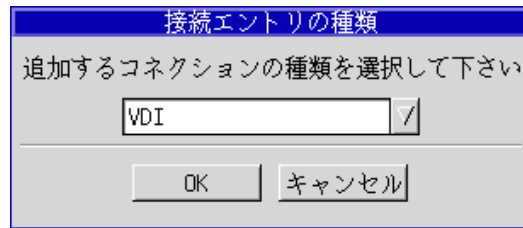
[次の設定を許可する]

下記の特性が設定可能です。

- ・ デスクトップの背景
- ・ フォントスムージング
- ・ ドラッグ中にウィンドウの内容を表示
- ・ メニューとウィンドウアプリケーション
- ・ テーマ
- ・ ビットマップのキャッシュ

3.3.3 VMware View 接続エントリ

VMware View 接続エントリを登録するには、接続マネージャで[追加]ボタンをクリックし、[接続エントリの種類]画面にて VDI を選択してください。



各 VMware View 接続エントリ毎に、接続サーバ情報、接続エントリ名などを登録する必要があります。

3.3.3.1 [全般]タブ内の設定

[全般]タブ内では、接続サーバ情報、接続エントリ名を設定します。また、自動ログオンする場合に設定します。

The screenshot shows a dialog box titled 'VMware View接続エントリの作成/編集' (VMware View Connection Entry Creation/Editing). The '全般' (General) tab is selected. The dialog contains the following fields and options:

- 接続エントリ** (Connection Entry)
 - 名前:** (Name) [Text input field]
 - サーバ:** (Server) [Text input field]
 - ポート:** (Port) [Text input field, value: 80]
 - ☐ SSLを使用する (Use SSL)
- 自動ログオン** (Auto Login)
 - ☐ 自動ログオン (Auto Login)
 - ユーザー名:** (Username) [Text input field]
 - パスワード:** (Password) [Text input field]
 - ドメイン:** (Domain) [Text input field]

At the bottom, there are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

以下の設定項目があります。

【名前】

接続マネージャのリストに表示する、VDI 接続エントリのタイトルを入力します。

【サーバ】

VMware View サーバの IP アドレスを入力します。

【SSL を使用する】

VMware View サーバへの接続時に SSL を使用する場合、有効にします。

【自動ログオン】

VMware View サーバに接続したときに自動ログオンする場合、有効にします。

【ユーザー名】

自動ログオンするユーザーアカウント名を指定します。

【パスワード】

自動ログオンするユーザーアカウントに対応したパスワードを指定します。

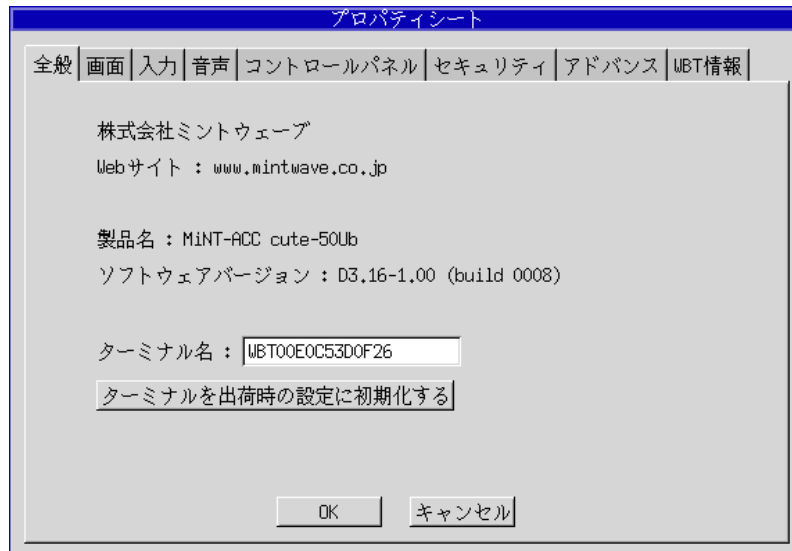
【ドメイン】

自動ログオンするユーザーアカウントが所属するドメイン名を指定します。

4. プロパティシート

プロパティシートは、動作環境の参照や設定を行うユーティリティです。プロパティシートは、接続マネージャ画面が表示されている状態で、キーボードの[F2]キーを押下することにより表示されます。

([ターミナルのパスワード]が有効に設定されている場合は、[F2]キー押下時にパスワードの入力が要求されます。)



4.1 ターミナルのプロパティ一覧

このユーティリティは、以下に示す機能をサポートしています。

・[全般]タブ

製品情報、ソフトウェアバージョン等の表示およびターミナル名の変更を行います。また、工場出荷時の端末設定への初期化もこの画面で行います。

・[画面]タブ

解像度、リフレッシュレート、色数およびスクリーンセーバーを設定します。

・[入力]タブ

マウススピードを設定します。

・[音声]タブ

オーディオボリュームを調整します。

・[コントロールパネル]タブ

プリンタ、ネットワーク設定、日付/時刻などを設定します。

・[セキュリティ]タブ

プロパティシートのパスワードおよび、ローカルログオンユーザの登録など、端末のセキュリティを設定します。

・[アドバンス]タブ

グローバル ICA 設定を行います。また、RDP/ICA/VDI セッションが終了した際の端末の自動シャットダウンを設定します。

・[WBT 情報]タブ

端末の CPU、メモリのスペックおよび IP アドレス情報を表示します。

4.2 プロパティシート設定項目および設定方法

4.2.1 [全般]タブ内の設定

[全般]タブ内では、端末の製品情報の表示およびターミナル名の変更を行います。また、工場出荷時の端末設定に初期化することができます。



下記の設定項目および表示項目があります。

[製品情報]

以下の情報を表示します。

- ・ 会社名
- ・ Web サイト
- ・ 製品名
- ・ ソフトウェアバージョン

[ターミナル名]

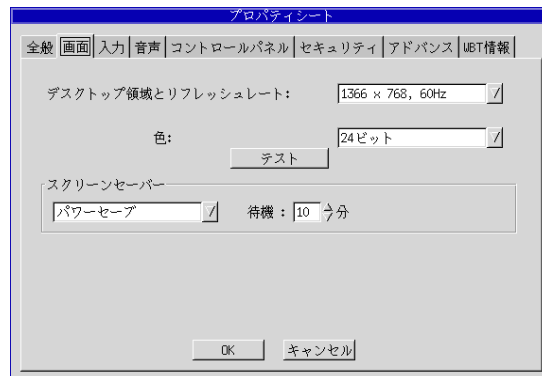
ターミナル名を設定します。

[ターミナルを出荷時の設定に初期化する]

設定を初期化する場合にクリックします。ボタンをクリックし、再起動を行うと、設定が初期化され、セットアップウィザードが起動します。

4.2.2 [画面]タブ内の設定

[画面]タブ内では、解像度、リフレッシュレート、色数およびスクリーンセーバーの設定を行います。



下記の設定を行います。

[デスクトップ領域とリフレッシュレート]

解像度およびリフレッシュレートを設定します。

変更する場合は、右側の▼をマウスでクリックして使用できる値を選択してください。

[色]

ディスプレイ画面の色数を設定します。右側の▼をマウスでクリックして使用する値をクリックしてください。以下の値から選択します。

- ・8 ビット
- ・16 ビット
- ・24 ビット

[テスト]ボタン

[デスクトップ領域とリフレッシュレート]で選択した設定が、ご使用のディスプレイ装置で正常に表示できるか、5秒間の表示テストを行います。

[スクリーンセーバー]

端末のスクリーンセーバー機能もしくはパワーセーブ機能を使用する場合に選択します。

以下の値から選択します。(デフォルト: **パワーセーブ**)

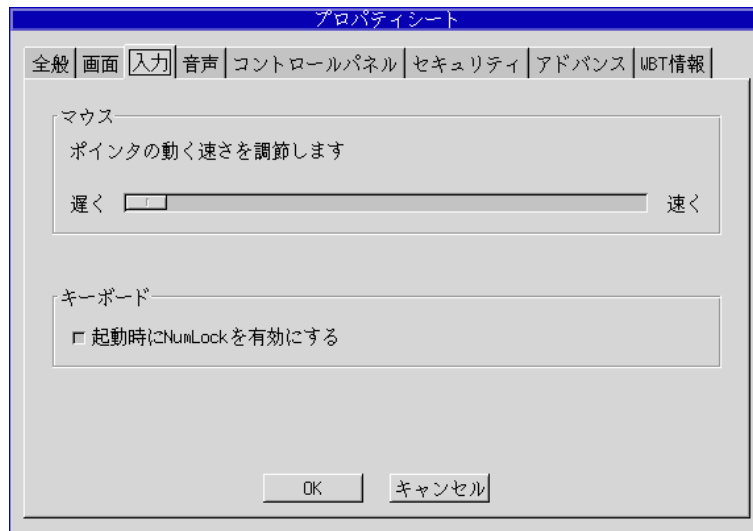
- ・なし
- ・スクリーンセーバー
- ・パワーセーブ

[待機]

スクリーンセーバー機能もしくはパワーセーブ機能を使用する場合、起動するまでの待機時間を分単位で設定します。(デフォルト: **10 分**)

4.2.3 [入力]タブ内の設定

[入力]タブ内では、マウススピードおよびタッチパッドの設定を行います。



[マウス]

スライダを左右にドラッグしてマウスカーソルの速度を設定します。

[起動時に NumLock を有効にする]

起動時に NumLock を有効にします。(デフォルト: **有効**)

4.2.4 [音声]タブ内の設定

[音声]タブ内では、端末から出力される音声のボリュームを調整します。



下記の設定項目があります。

[ボリューム]

スライダを左右にドラッグして端末から出力されるシステムの音量を設定します。

[ミュート]

端末から音声の出力を行わない場合に設定します。

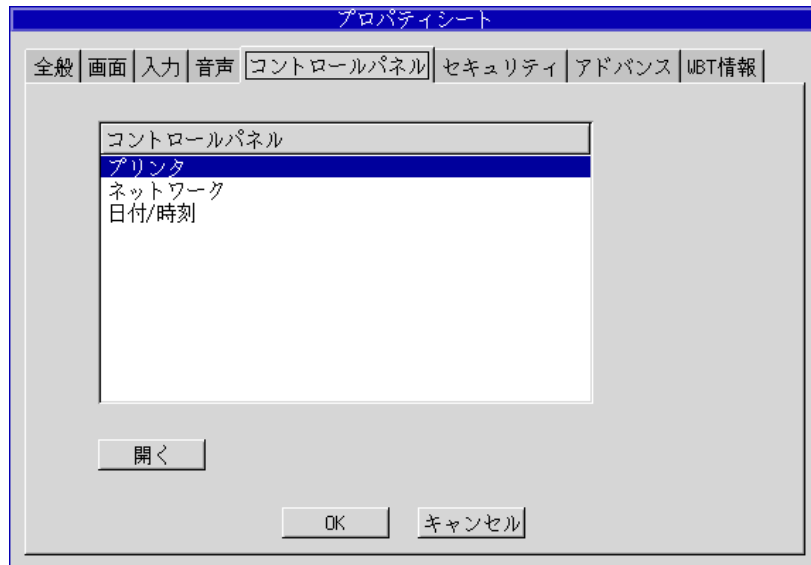
(デフォルト: 無効)

[テスト]

音声出力のテストを実施します。

4.2.5 [コントロールパネル]タブ内の設定

[コントロールパネル]タブ内では、端末に接続するプリンタ、ネットワーク設定、日付/時刻などを設定します。



下記の項目が設定できます。

[プリンタ]

ローカルプリンタを設定します。

詳細な設定方法は、**7.2.ローカルプリンタの利用** を参照してください。

[ネットワーク]

端末のネットワーク設定 (IP アドレスなど) を行います。

詳細は、**2.2.1. ネットワーク設定** を参照してください。

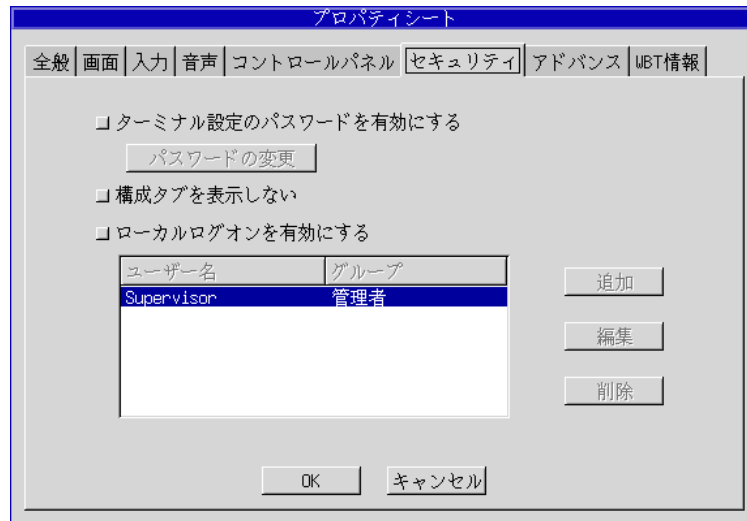
[日付/時刻]

端末の日付/時刻を設定します。

詳細は、**2.2.3. 現在時刻の設定** を参照してください。

4.2.6 [セキュリティ]タブ内の設定

[セキュリティ]タブ内では、プロパティシートのパスワードおよび、ローカルログオンユーザの登録など、端末のセキュリティを設定します。



以下の設定項目があります。

[ターミナル設定のパスワードを有効にする]

接続マネージャ画面で[F2]キーを押下することによりプロパティシート画面を表示させる際、パスワードを要求するように設定します。

[構成タブを表示しない]

接続マネージャ画面の[構成]タブを表示しないように設定します。

[ローカルログオンを有効にする]

起動の際に、ユーザー認証機能を有効にします。

・リストボックス:

設定されたアカウントをリストアップします。各リストには、ユーザー名、グループ（セキュリティの権限レベル）が表示されます。

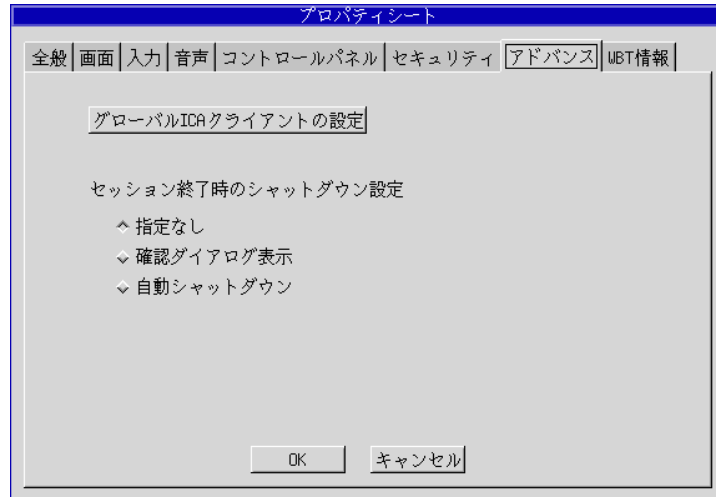
・追加、編集、削除ボタン:

[ユーザーアカウント]ダイアログボックスを開き、ユーザーアカウントを追加、修正または削除します。

セキュリティ機能の設定方法については、6. **セキュリティの機能** を参照してください。

4.2.7 [アドバンス]タブ内の設定

[アドバンス]タブ内では、グローバル ICA 設定および、RDP/ICA/ VDI セッションが終了した際の端末の自動シャットダウンを設定します。



下記の項目が設定できます。

[グローバル ICA クライアントの設定]ボタン

端末上のすべての ICA 接続エントリに適用される設定を変更します。

設定できる項目およびその方法については、5. **グローバル ICA クライアントの設定** を参照してください。

[セッション終了時のシャットダウン設定]

すべてのセッションが終了した場合、自動的に端末をシャットダウンするかを指定します。

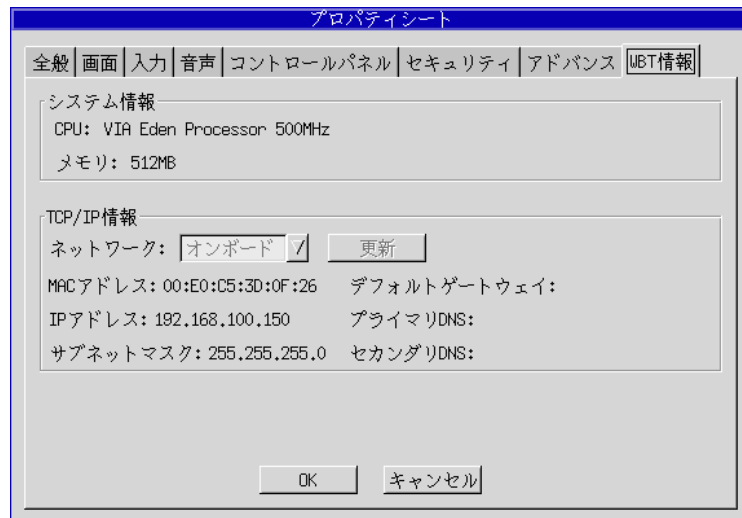
以下の値から選択します。

(デフォルト:指定なし)

- ・指定なし
接続マネージャ画面に戻ります。
- ・確認ダイアログ表示
端末をシャットダウンするかを問い合わせるダイアログボックスを表示します。
- ・自動シャットダウン
端末をシャットダウンします。

4.2.8 [WBT 情報]タブ内の設定

[WBT 情報]タブ内では、端末のシステム情報(CPU、メモリ)およびネットワーク情報(MAC アドレス、IP アドレス)を表示します。



下記の項目が表示できます。

【更新】

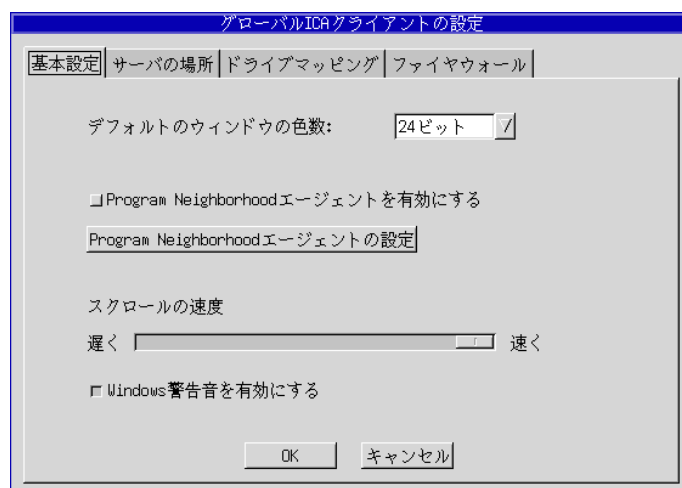
DHCP が有効な場合のみ、DHCP サーバから、IP アドレスなどを再取得します。

5. グローバル ICA クライアントの設定

すべての ICA 接続エントリに適用される設定値や新しい ICA 接続エントリを作成するときに適用されるデフォルト値の設定方法を説明します。

[グローバル ICA クライアントの設定]画面を表示するには、

- 1) 接続マネージャ画面で[F2]キーを押下して、プロパティシートを表示します。
- 2) プロパティシートの[アドバンス]タブをクリックし、[グローバル ICA クライアントの設定]ボタンをクリックすると、以下の[グローバル ICA クライアントの設定]ダイアログボックスが表示されます。



[グローバル ICA クライアントの設定]ダイアログボックスには、次のタブがあります。

- [基本設定]タブ

[デフォルトのウィンドウの色数]を設定します。また、Program Neighborhood エージェントを設定します。

- [サーバの場所]タブ

ICA 接続エントリのデフォルトの ICA ブラウズプロトコルとサーバの場所を設定します。

- [ドライブマッピング]タブ

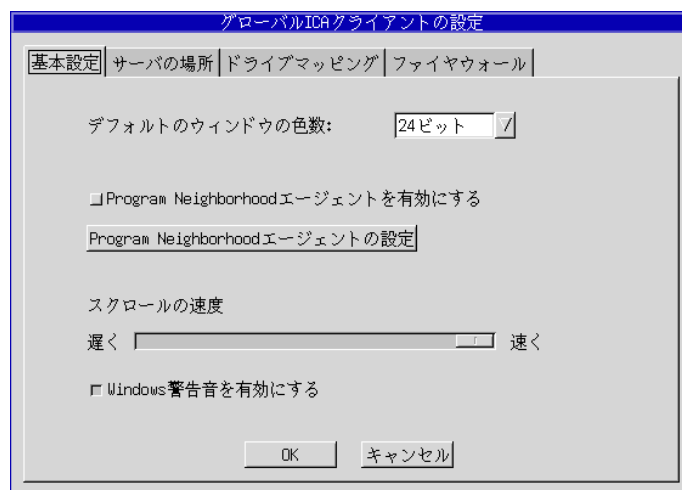
マッピングを行う USB ストレージデバイスのデバイス数およびドライブレターを設定します。

- [ファイヤウォール]タブ

デフォルトの SOCKS または Secure プロキシ、代替アドレスのリマップ、および Citrix SSL/TLS Relay に関する設定を行います。

5.1 [基本設定]タブ内の設定

[基本設定]タブ内では、[デフォルトのウィンドウの色数]を設定します。また、Program Neighborhood エージェントを設定します。



[基本設定]タブでは、次の項目を設定できます。

[デフォルトのウィンドウの色数]

ICA 接続エントリを新規作成するときにデフォルトで選択されるウィンドウの色数を選択します。

以下の値から選択できます。(デフォルト:24 ビット)

- ・4 ビット
- ・8 ビット
- ・16 ビット
- ・24 ビット

[Program Neighborhood エージェントを有効にする]

Program Neighborhood エージェントを有効にします。(デフォルト:無効)

[Program Neighborhood エージェントの設定]ボタン

Program Neighborhood エージェントが有効な場合に、接続するサーバの URL を設定します。

[スクロールの速さ]

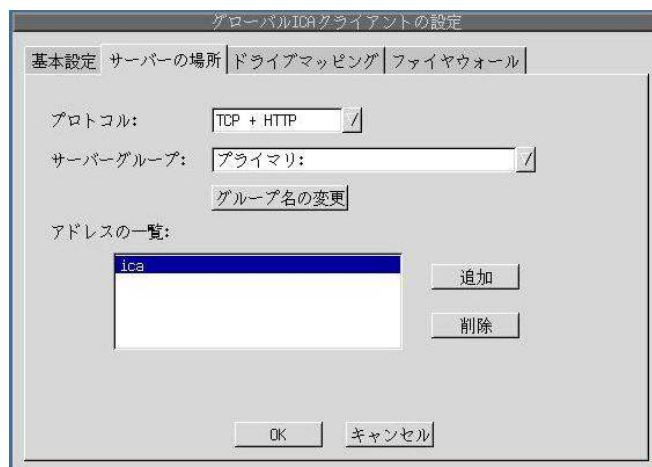
スライダを左右にドラッグし、マウス・キーボードでのスクロール操作をした際の移動速度を設定します。

[Windows 警告音を有効にする]

Windows 警告音を有効にします。(デフォルト:有効)

5.2 [サーバーの場所]タブ内の設定

[サーバーの場所]タブ内では、ICA 接続エントリのデフォルトの ICA ブラウズプロトコルとサーバの場所を設定します。



下記の設定項目があります。

[プロトコル]

ICA 接続エントリを新規作成するときにデフォルトで選択される、ICA ブラウズに使用するプロトコルを設定します。以下の値から選択できます。(デフォルト:TCP + HTTP)

- ・TCP + HTTP
- ・TCP
- ・SSL/TLS + HTTPS

[サーバグループ]

[サーバーの場所]タブ内のサーバアドレスの追加/削除を行うサーバグループを選択します。以下の値から選択できます。

- ・プライマリ
- ・バックアップ 1
- ・バックアップ 2

[グループ名の変更]ボタン

[サーバグループ]で選択されたサーバグループ名を変更します。入力した名前は、それぞれ[プライマリ]、[バックアップ1]、[バックアップ2]の後に追加されます。

[追加]ボタン

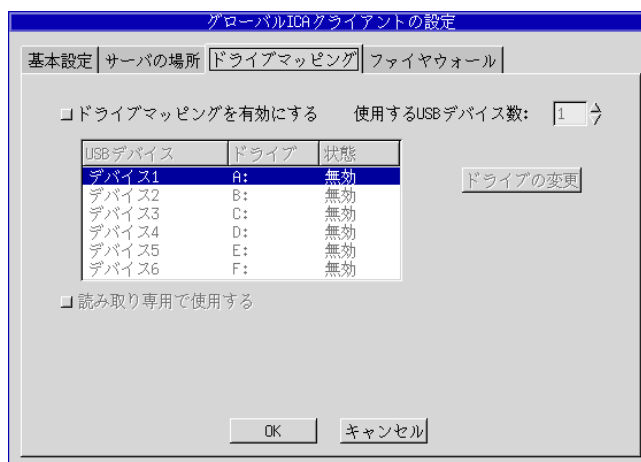
[サーバグループ]で選択されたサーバグループのアドレス一覧に、サーバを追加します。

[削除]ボタン

[サーバグループ]で選択されたサーバグループのアドレス一覧からサーバを削除します。

5.3 [ドライブマッピング]タブ内の設定

[ドライブマッピング]タブ内では、マッピングを行う USB ストレージデバイスのデバイス数およびドライブレターを設定します。



下記の設定項目があります。

[ディスクドライブ]

USB ポートに接続したストレージデバイスを ICA セッション内で使用する場合、有効にします。
(デフォルト: 無効)

[使用する USB デバイス数]

USB ポートに接続したストレージデバイスを ICA セッション内で使用する場合、使用する USB デバイス数を設定します。

[ドライブの変更]ボタン

USB ポートに接続したストレージデバイスを ICA セッション内で使用する場合、使用する USB デバイスのドライブレターをデフォルトから変更する際に設定します。

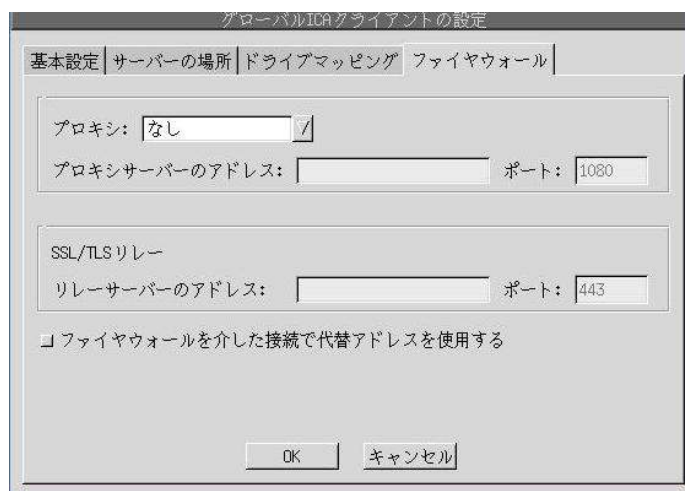
[読み取り専用で使用する]ボタン

USB デバイスを読み取り専用で使します。

ICA セッション内での USB ストレージデバイスの使用方法については、**7.1 USB ストレージデバイスの利用** 項をご参照ください。

5.4 [ファイヤウォール]タブ内の設定

[ファイヤウォール]タブでは、ICA エントリを作成するときに適用される SOCKS または Secure プロトコルサーバ、SSL/TLS Relay の設定を行います。



下記の設定項目があります。

[プロキシ]

Citrix サーバに対して、SOCKS プロキシサーバまたは Secure(HTTPS)サーバ経由で接続する際に設定します。以下の値から選択できます。

(デフォルト:なし)

- ・なし
- ・SOCKS
- ・HTTPS

[プロキシサーバのアドレス/ポート]

SOCKS プロキシサーバまたは Secure(HTTPS)サーバ経由で接続する際に、プロキシサーバの IP アドレスおよびポート番号を設定します。

[SSL/TLS リレーサーバのアドレス/ポート]

[サーバーの場所]タブ内の[プロトコル]にて、SSL/TLS + HTTPS が選択された場合、SSL/TLS リレーサーバのアドレスおよびポート番号を設定します。

[ファイヤウォールを介した接続で代替アドレスを使用する]

ネットワークアドレス変換を行うファイヤウォールのため、Citrix サーバのマスタブラウザが代替アドレスを返すように構成されている場合は、有効にします。(デフォルト:無効)

6. セキュリティ機能

管理者以外の方が不正に端末設定情報を変更することを防止するために、様々なセキュリティ機能を搭載しています。

6.1 端末セキュリティ機能の種類

端末に搭載しているセキュリティ機能は次の通りです。

- **ターミナル設定のパスワード**

プロパティシート表示時(ターミナル接続マネージャ画面で[F2]キーを押した時)にパスワード入力を促すことにより、プロパティシートの設定を保護します。

- **接続マネージャ[構成]タブの非表示化**

接続マネージャの[構成]タブを表示しないようにすることで、端末利用者が接続エントリの設定操作(追加/編集/削除/スタートアップ)を実施することを防止します。

- **ユーザー認証機能**

端末利用開始前にユーザー認証を実施することにより、管理者以外の方が不正に端末設定情報を変更することを防止する機能です。

- **IEEE802.1x 認証機能**

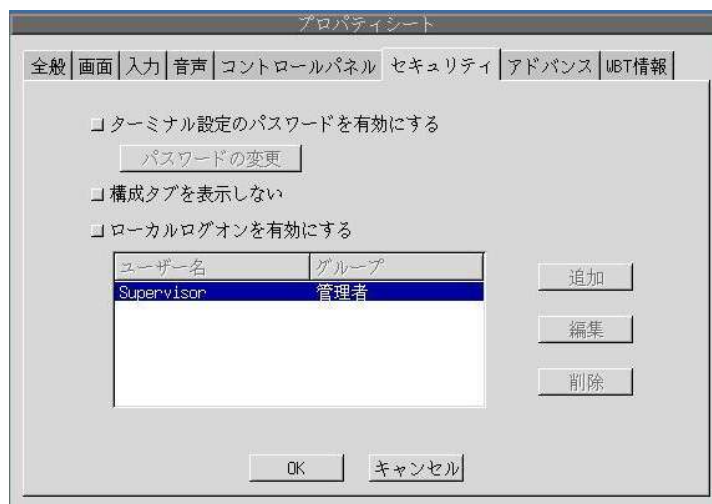
IEEE802.1x は、LAN スイッチや無線 LAN のアクセスポイントで端末を認証してから LAN に接続するための技術です。端末では、有線・無線ともに IEEE802.1x 認証に対応しています。

6.2 ターミナル設定のパスワード

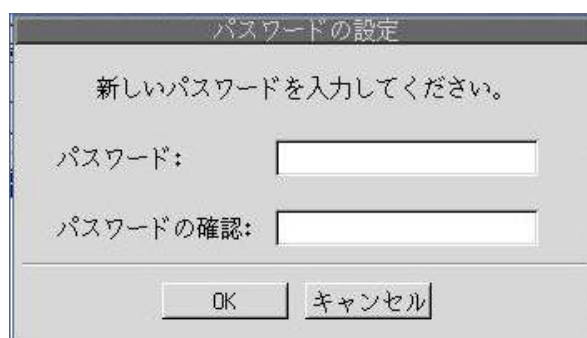
プロパティシートの[セキュリティ]タブ内で、[ターミナル設定のパスワードを有効にする]チェックボックスを有効にすると、接続マネージャ画面からプロパティシート画面を表示させる際に、パスワードを要求するように設定されます。

設定方法:

- 1) 接続マネージャ画面で[F2]キーを押下し、プロパティシートを表示します。
- 2) プロパティシートの[セキュリティ]タブをクリックして開きます。



- 3) [ターミナル設定のパスワードを有効にする]チェックボックスを有効にします。
- 4) [パスワードの設定]ダイアログが表示されたら、パスワードを設定します。



備考:

パスワードの長さは最大 8 文字までです。

既に設定されているパスワードを変更する場合は、ここで新しいパスワードを設定します。

- 5) 設定が完了したら、[OK]ボタンをクリックし、設定内容を保存します。

6.3 接続マネージャ [構成]タブの非表示化

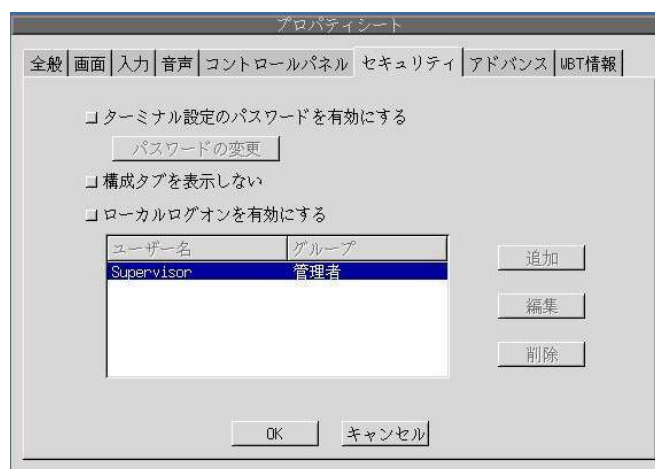
端末利用者に、接続エントリの設定（追加/編集/削除/スタートアップ）を操作されないために、接続マネージャの表示の際に[構成]タブを表示しないように設定します。

注意：

本機能は、接続マネージャでの接続先サーバの登録作業が終了した後、有効にしてください。

設定方法：

- 1) 接続マネージャ画面で[F2]キーを押下し、プロパティシートを表示します。
- 2) プロパティシートの[セキュリティ]タブをクリックして開きます。



- 3) [構成タブを表示しない]チェックボックスを有効にします。

6.4 ユーザー認証機能

本機能は、端末利用開始前にユーザー認証を実施することにより、管理者以外の方が不正に端末設定情報を変更することを防止する機能です。

ユーザーアカウントは、デフォルトでは、管理者権限を持つ **Supervisor** (パスワード: なし) が存在します。ユーザーの追加については、設定方法をご覧ください。

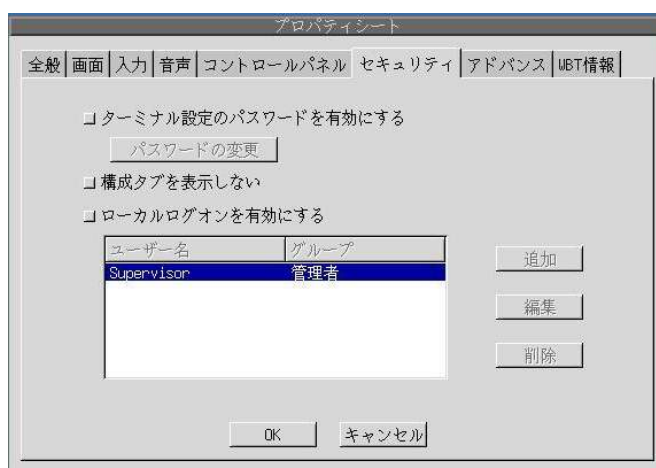
注意:

Supervisor アカウントのパスワードは、後述の「パスワードの変更」を参照し、事前に変更してください。

また、**Supervisor** アカウントは、削除することはできません。

ユーザー認証機能 設定方法:

- 1) 接続マネージャ画面で[F2]キーを押下し、プロパティシートを表示します。
- 2) プロパティシートの[セキュリティ]タブをクリックして開きます。



- 3) [ローカルログオンを有効にする]チェックボックスを有効にします。

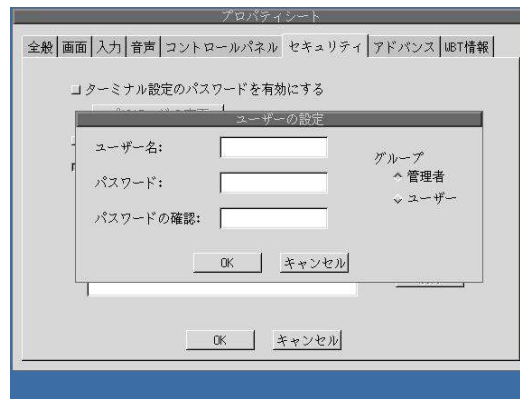
注意:

本項目が無効の場合は、ユーザーアカウントを設定してもユーザー認証機能を利用することはできません。

- 4) [追加]ボタンをクリックします。

5) [ユーザーの設定]ダイアログが表示されたら、次の項目を設定します。

- ユーザー名
- パスワード(パスワードの確認入力)
- グループ



設定が完了したら、[OK]ボタンをクリックし、設定を保存します。

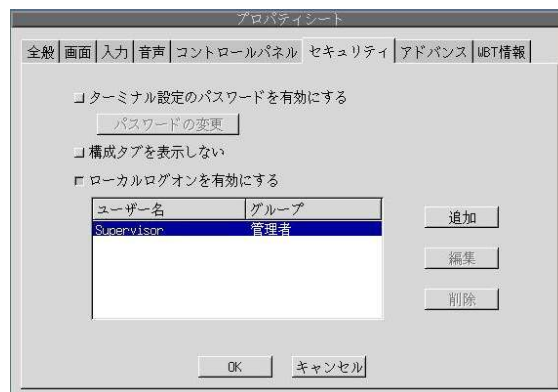
備考:各グループ権限による違い

各グループ権限で表示/設定および実行可能な項目は、下表のように異なります。

(記号の意味: ○・・・表示・実行・設定可 △・・・表示のみ可 -・・・タブ非表示)

項目		管理者	ユーザー
接続マネージャ	[接続エントリ]タブ	○	○
	[構成]タブ	○	-
プロパティシート	[全般]タブ	○	△
	[画面]タブ	○	○
	[入力]タブ	○	○
	[音声]タブ	○	○
	[コントロールパネル]タブ	○	-
	[セキュリティ]タブ	○	-
	[アドバンス]タブ	○	-
	[WBT 情報]タブ	○	-

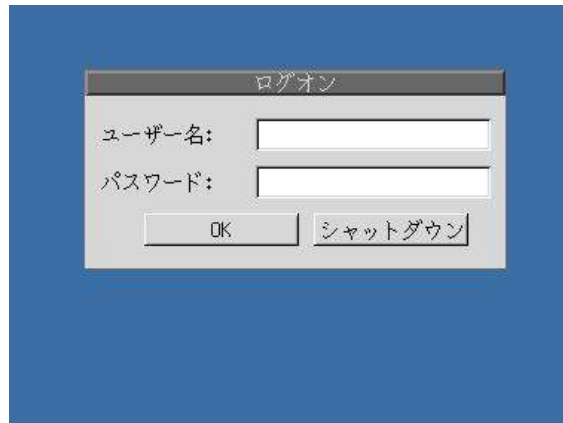
6) 追加したユーザーアカウントが[セキュリティ]タブ内のリストに表示されます。



ユーザー認証機能 有効時の流れ:

端末の電源を投入します。

起動すると、[ログオン]ダイアログが表示されます。



ユーザー名とパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックします。

入力したアカウント情報で端末にログインし、アカウント権限に対応した画面が表示されます。



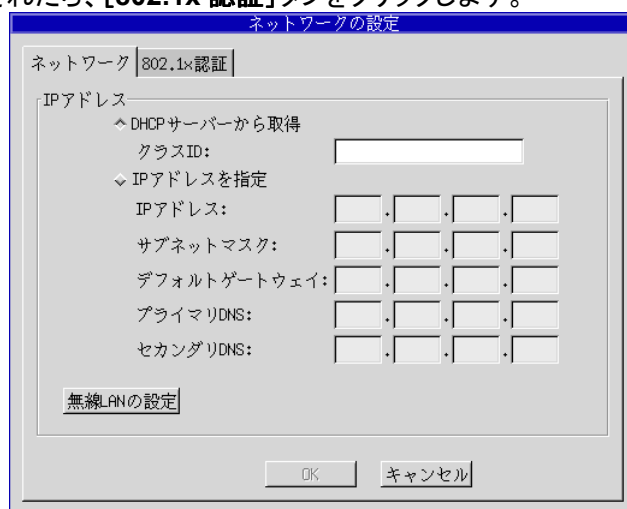
別のアカウントでログインしたいときは、端末を再起動します。

6.5 IEEE802.1x 認証機能

IEEE802.1x 認証 は、LAN スイッチや無線 LAN のアクセスポイントで端末を認証してから LAN に接続するための技術です。端末では、有線・無線ともに IEEE802.1x 認証に対応しています。

設定方法:

- 1) 接続マネージャ画面で[F2]キーを押下し、プロパティシートを表示します。
- 2) プロパティシートの[コントロールパネル]タブをクリックし、[ネットワーク]を選択して[開く]をクリックします。
- 3) 設定するネットワークインターフェイスを選択し、[設定]ボタンをクリックします。
次の画面が表示されたら、[802.1x 認証]タブをクリックします。



- 4) [802.1x 認証を有効にする]チェックボックスを有効にし、[認証方法]で認証方式を選択します。
認証方式選択後は、[設定]ボタンをクリックし、認証に使う情報を設定してください。



MD5 の場合



The dialog box titled "MD5の設定" (MD5 Settings) contains two input fields: "ユーザ名:" (Username) and "パスワード:" (Password). At the bottom, there are two buttons: "OK" and "キャンセル" (Cancel).

[ユーザー名]

ユーザーアカウント名を指定します。

[パスワード]

ユーザーアカウントに対応したパスワードを指定します。

PEAP の場合



The dialog box titled "PEAPの設定" (PEAP Settings) is divided into two sections. The "アカウント" (Account) section contains three input fields: "ユーザ名:" (Username), "パスワード:" (Password), and "ドメイン:" (Domain). The "証明書" (Certificate) section contains a "証明書:" (Certificate) input field with "更新" (Update) and "削除" (Delete) buttons below it, and a "CN:" (Common Name) input field below that. At the bottom, there are two buttons: "OK" and "キャンセル" (Cancel).

[ユーザー名]

ユーザーアカウント名を指定します。

[パスワード]

ユーザーアカウントに対応したパスワードを指定します。

[ドメイン]

ドメイン名を指定します。

[証明書]

インストール済みの証明書を表示します。

[更新]

証明書をインストールします。

[削除]

インストール済みの証明書を削除します。

[CN]

CN を指定します。

5) 設定後は、[OK]ボタンをクリックして、設定内容を保存してください。

7. 周辺機器の接続

端末からサーバに対して ICA/RDP コネクションを行うと、端末に接続された、USB メモリなどの USB ストレージデバイスやプリンタを使用することができます。

7.1 USB ストレージデバイスの利用

端末では、本体に USB ストレージデバイスを取り付け利用することが可能です。

備考:

- USB ストレージデバイスを利用する場合は、サーバ側をクライアントドライブの利用を許可する設定にしておいてください。
- VDI(VMware View)セッションでは、シンクライアント端末に取り付けた USB ストレージデバイスの利用はサポートしていません。

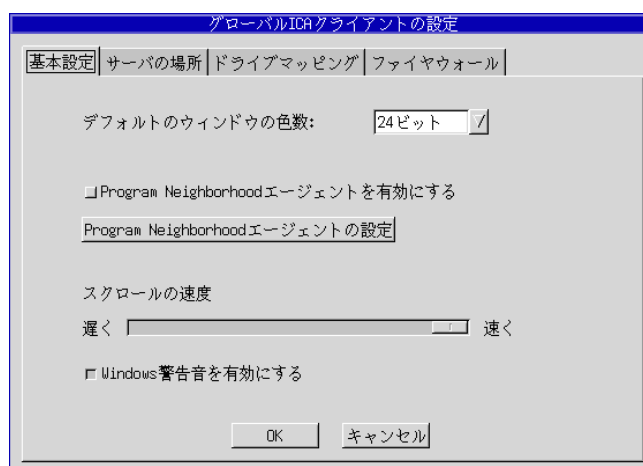
USB ストレージデバイスの取り扱い時の注意

- すべての USB ストレージデバイスの動作を保証するものではありません。
- アクセス中の取り外しは、機器の故障やデータの損失の可能性があります。アクセス中には、絶対に取り外さないでください。

7.1.1 ICA 接続時に端末本体に接続した USB ストレージを使うには

端末側の準備:

- 1) 端末 に USB ストレージデバイスを取り付けます。
- 2) 接続マネージャが表示されたら[F2]キーを押下して、プロパティシートを表示します。
- 3) プロパティシートの[アドバンス]タブをクリックし、[グローバル ICA クライアントの設定]ボタンをクリックすると、以下の[グローバル ICA クライアントの設定]ダイアログボックスが表示されます。

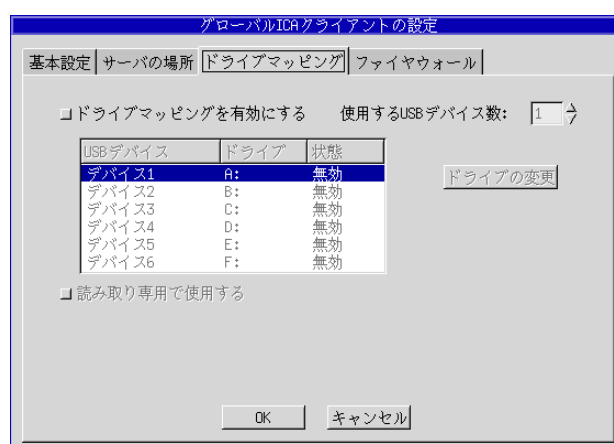


- 4) [ドライブマッピング]タブをクリックします。次の画面が表示されます。

まず、[ドライブマッピングを有効にする]項目を有効にします。

次に、端末本体に繋いだ USB ストレージの数に応じて[使用する USB デバイス数]を設定します。

USB ストレージをマッピングするドライブレターがサーバのドライブと一緒にになる場合は、[ドライブの変更]ボタンをクリックし、マッピングするドライブレターを変更してください。



- 5) [OK]ボタンをクリックして設定を保存したら、Citrix サーバに接続します。

7.1.2 RDP 接続時に端末本体に接続した USB ストレージを使うには

注意: Windows 2000 Server/Advanced Server に RDP 接続した場合は、USB ストレージデバイスを使用することはできません。

端末側の準備:

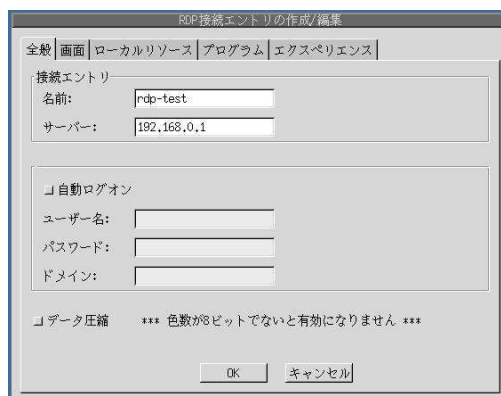
- 1) 端末 に USB ストレージデバイスを取り付けます。
- 2) 接続マネージャが表示されたら**[構成]**タブをクリックして、画面表示を切り替えます。



- 3) 端末に取り付けた USB ストレージデバイスを利用したい接続先 (RDP エントリ) をクリックして選択し、**[編集]** ボタンをクリックします。



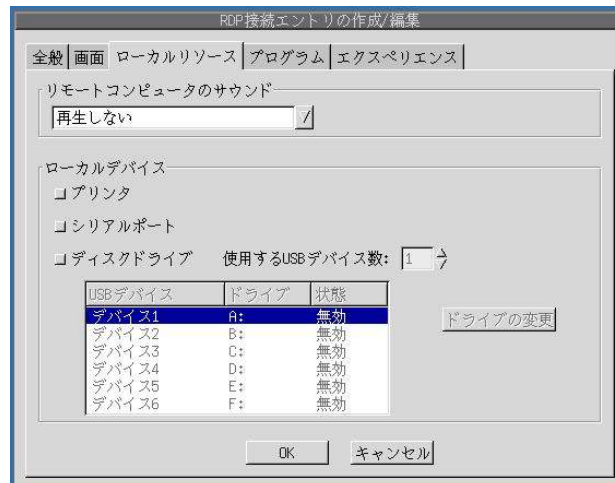
- 4) 選択したエントリの編集画面が表示されます。



5) **[ローカルリソース]**タブをクリックします。次の画面が表示されます。

まず、**[ディスクドライブ]**項目を有効にします。

次に、端末本体に繋いだ USB ストレージの数に応じて**[使用する USB デバイス数]**を設定します。
USB ストレージをマッピングするドライブレターがサーバのドライブと一緒にになる場合は、**[ドライブの変更]**ボタンをクリックし、マッピングするドライブレターを変更してください。



6) **[OK]**ボタンをクリックして設定を保存したら、ターミナルサーバに接続します。

7.1.3 USB ストレージデバイスについての注意事項

以下に記述する注意事項がありますので、使用の際はご注意ください。

USB メモリ/HDD/FD について

- フォーマットを行うことはできません。
- **USB メモリ/HDD** の場合、DOS フォーマットされたものだけを使用できます。
- **FD** の場合、次のタイプの DOS フォーマットされたものだけを使用できます。
 - 2HD……………1.44MByte
- ディスク内に新規作成したファイル・フォルダの作成日時は、端末の日時が使用されます。コントロールパネル内の[日付と時刻]で正しく設定してからご利用ください。

上記以外のデバイス(CD など)はサポートしておりません。

7.2 ローカルプリンタの利用

端末では、サーバへ接続して、端末の平行ポート、シリアルポートおよび USB ポートに接続したプリンタ(ローカルプリンタと呼びます)から印刷することができます。ここでは、ローカルプリンタへの印刷方法について説明します。

注意:

- ローカルプリンタを利用する場合は、サーバ側にて、クライアントプリンタの利用を許可する設定にしておいてください。
- 端末でローカルプリンタを利用するには、接続するサーバ上に、利用するプリンタのドライバがインストールされている必要があります。
事前にプリンタドライバの説明書を読み、インストールを行ってください。

7.2.1 ICA 接続時に端末本体に接続したプリンタを使うには

ローカルプリンタの接続

- 1) 端末の電源が OFF になっているのを確認してから、端末の平行ポート、シリアルポートもしくは USB ポートに接続可能なプリンタを取り付けます。
- 2) 端末の電源を入れます。

ローカルプリンタの設定・確認

7.2.3 ローカルプリンタの設定と確認 に示す手順に従い、ローカルプリンタの設定・確認を行ってください。

7.2.2 RDP 接続時に端末本体に接続したプリンタを使うには

ローカルプリンタの接続

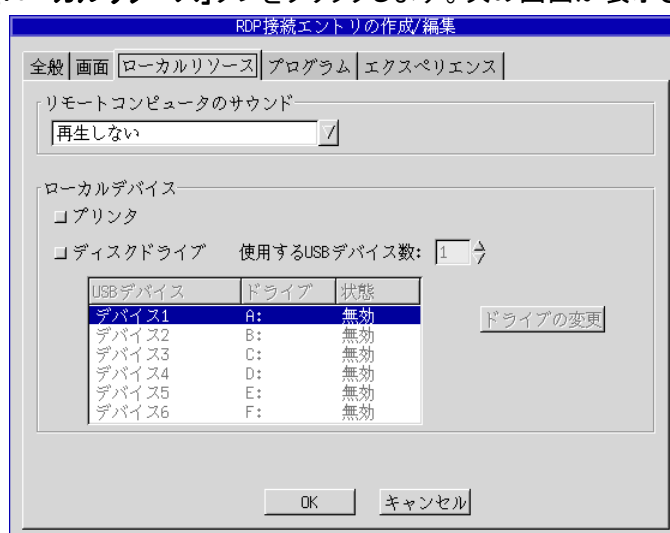
- 1) 端末の電源が OFF になっているのを確認してから、端末の平行ポート、シリアルポートもしくは USB ポートに接続可能なプリンタを取り付けます。
- 2) 端末の電源を入れます。

接続エントリの設定

- 1) 接続マネージャが表示されたら**[構成]**タブをクリックして、画面表示を切り替えます。



- 2) 端末に取り付けたローカルプリンタを利用したい接続先 (RDP エントリ) を選択し、**[編集]** ボタンをクリックし、**[ローカルリソース]** タブをクリックします。次の画面が表示されます。



- 3) **[プリンタ]** 項目を有効に設定し、**[OK]** ボタンをクリックして設定を保存します。

ローカルプリンタの設定・確認

7.2.3 ローカルプリンタの設定と確認 に示す手順に従い、ローカルプリンタの設定・確認を行ってください。

7.2.3 ローカルプリンタの設定と確認

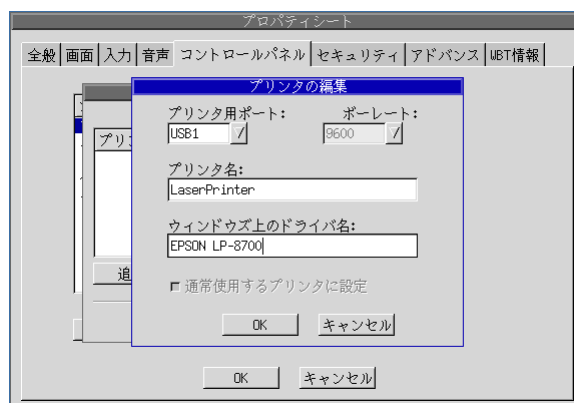
以下の手順で、ローカルプリンタの設定と確認を行います。

●ローカルプリンタの設定

- 1) 接続マネージャ画面で[F2]キーを押下し、プロパティシートを表示します。
- 2) プロパティシート画面で[コントロールパネル]タブをクリックし、[プリンタ]を選択して[開く]ボタンをクリックして、[プリンタ]ダイアログボックスを開きます。



- 3) [追加]ボタンをクリックし、[プリンタの編集]ダイアログボックスを開き、[プリンタ用ポート]、[プリンタ名]、[ウィンドウズ上のドライバ名]を入力します。



[プリンタの編集]ダイアログボックスには、以下の設定項目があります。

[プリンタ用ポート]

プリンタを接続するポートを選択します。

[ボーレート]

[プリンタ用ポート]で、COMx が選択された場合は、シリアルポートの転送速度 (単位: bps)を選択します。

[プリンタ名]

追加するプリンタに設定する名前を入力します。

[ウィンドウズ上のドライバ名]

プリンタが使用する、ウィンドウズサーバ上のドライバ名を設定します。

[通常使用するプリンタに設定]

設定を行ったプリンタが、サーバとのセッション接続時にマッピングを行う場合は、有効にします。(一台のプリンタのみに設定が可能です)

- 4) 入力が終わったら、[OK]をクリックしてプリンタを登録します。
追加したプリンタが[プリンタ]ダイアログボックスのリストに表示されます。



●ローカルプリンタの確認

- 1) 端末からサーバへ接続を行い、タスクバー上の[スタート]ボタンをクリックし、[設定]をポイントします。
- 2) [プリンタ]フォルダをクリックします。
- 3) [プリンタ]ウィンドウが表示されます。
この中に設定したプリンタモデルが表示されていることを確認してください。